



ひひひ分類法



chokei

見出し

劉国鈞はデューイ十進分類法を参考にしたので、中国図書分類法の体系は階層構造となっている。まず、知識の全分野をこのつに区分して1から9の記号を割り当てる（そのうち、歴史と地理の区分では、項目の量が膨大すぎるため、6*中国の歴史地理*、7世界の歴史地理と2つに分けられている）。そして、全分野を扱う百科事典など、区分された9つの分野のどこにも入らないものを0類（つまり総類）としてまとめている。この第一区分で得られるのを基本大綱（main classes）と呼ぶ。

デューイ十進分類法のシステムを採用して、中国図書にふさわしい分類項目になっている、中国大陸で長い時間で多くの図書館採用されていた。

しかし、文化大革命の影響で 十進分類法は資本主義の国アメリカが作ったものなので批判され 社会主義の中国大陸では不適切だという考えで、十進分類法である劉国鈞中国図書分類法も巻き込まれ ほとんどの図書館でだんだん不採用になった。

中国大陸のほうは中国図書館分類法を採用になった。中国図書館分類法は、大分類の一番目がマルクス・レーニン主義及び毛沢東主義となっており、成立当時の社会情勢を色濃く反省させたものとなっている。

中華民国政府が台湾に引っ越ししてから 1964年、台湾生まれ育ちの頼永祥氏が劉国鈞中国図書分類法を再編集し、頼永祥中国図書分類法として、台湾で出版された。台湾、香港、マカオでの図書館はほとんど頼永祥中国図書分類法を採用している。

「比較分類法は」は分類法研究の1つの課題である。これによって各分類法の構成についての正しい認識が得られ、図書分類法の動向が把握され、実務の遂行に確信を持つことが可能となるのである。各論において取扱った歴史・伝記・地誌・語学・文学の比較は現在においても何等の修正を認めない。しかし理論において正しいものが常に實際上便宜であるか否かは疑わしいのでNDCの修正にあたっては一応この比較分類法に於ける結論を提出したが、敢えてこれを固執する態度はとらなかった。今後、比較研究が各部門に詳細に行われ分類表の細目展開に分類規程の整備に寄与することができるならば著者の望外のよろこびとするところである。



理論

箇条書き（番号なし）

- 分類の三要素
- 分類されるもの 被分類体
- 分類された各々 分類肢

分類の基準たる一定の原理 分類原理（分類の基礎、区分原理、区分の基準、分積の原理、分積の基準・特徴・徴表）